

Satellite 2010 Conference & Exhibit and SSPI Gala に参加して

特別編集顧問 北爪 進

概要

2010年3月15～18日 National Harbor の Gayload National Convention Center にて開催された Satellite 2010 Conference & Exhibit と SSPI Gala に参加する機会を得たのでその概要を報告する。今年の Satellite Conference & Exhibit での Topics は “The New Solution, New Concept, New Faces, New Exhibits” を掲げているようである。

昨年は予期せぬ世界的金融危機 (Financial Crisis) に対して衛星通信オペレータや衛星開発メーカーがどのような状態であり、又どのように対応しようとしているのかが論点となったが、今年の討論では、衛星通信関連業界は Hosted Payload など Government and Military end-users の需要などでその影響も少なく推移している様子である。Satellite 2010 conference には 300 人以上の Speaker と 9500 以上の参加者があったと報ぜられている、展示も 453 ブースと言はれ、何れも昨年を越えている規模とのことであった。又 Satellite Executive of the Year は CapRock Communications の Chairman and CEO である Peter Shaper の受賞となったことは多様化しているユーザの要求と衛星オペレータとの間を埋めるビジネスも又本格的になって来たと感じられる。受賞者の Peter Shaper は Boeing 社スポンサーの Satellite Executive of the Year Award Presentation には姿を見ることが出来なかったが Ariane 主催の Reception には元気な姿を見せていた。SSPI の祝賀会が 134 テーブル準備され盛大に挙行された。余談になるがテーブル予約料金が昨年と比較して4倍になっていたので参加者が減るのではと危惧していたが杞憂であった。



Fig-1:新会場の Gayload National Convention Center

Conference

3月15日のWashington入りになった為Pre Conferenceには参加出来ず、3月16日のThe Big Four : Agenda for the Coming Decadeよりの参加となった。以下概要を記す。

The Big Four : Agenda for the Coming Decade

このSessionは世界四大Satellite OperatorのCEOが一同に会しての討論であった、パネリストは昨年同様Messer Romain Bausch, President and CEO SES Global, Daniel Goldberg, CEO Telesat, David Mcglade, Intelsatの3人と新しく昨年Eutelsat CEOになったMichel De Rozenを加えた4人のCEOにScott ChaseとJason BatesがModeratorとして加わり討論が行われた。昨年はEutelsatのCEOがGiliano BellettaであったがMichel De Rozenが新CEOになったことでの交替である。衛星メーカの代表が加わっていないのは昨年同様である、又パネリストが五大Satellite OperatorのCEOに拡大されると日本からSKY Perfect JSATが加わることになる。討論は衛星通信オペレータが今後数年に遭遇するであろう問題について、マーケットの新動向と共に、衛星通信での3D-TVなどNew Applicationの開発を通して技術革新への貢献(proud of innovation)と世界的経済恐慌の影響(No impact global economical crisis)について討論された。これからの数年は衛星通信業界にとって3D-TVやKa-band戦略などを押しすすめることによって、昨年行った見通しより明るくなっているとの見方が大方のCEOの見解であった。

しかし衛星打ち上げ手段であるロケットの価額が高騰して従来調達価額の3割増になっているのが問題であり打ち上げコスト低減のためco-passengerを見つけることが重要になっているとの昨年の指摘に加え、ArianeやILSは素晴らしい貢献をしているが、更にロケット打ち上げ業者を増やす(Additional Launch Capacities)ことが重要であるとのDan Goldbergの主張は傾聴に値する。そこでSpace-Xの貢献に期待すると共に中国やインドのロケットを検討する可能性が示唆された。この話の中で特に中国のロケットの信頼性が高いことが強調されていたことには興味を持った。更に米国はロケットによる民需衛星打ち上げ市場に戻ってくるのか?との問い掛けもあった。

もう一つの話題が衛星通信業界は他の業界に比べ全体の市場が小さい、北米では需要の主流が3Dを含めたTV事業であり、欧州ではDTHであるが全体のパイは小さい、この中でビジネスを継続するには大型衛星から小中型衛星にシフトするのも一つの方策であると、Cloud ICのように急激に拡大している事業はボリューム対応が事業遂行には必要であるがこの業界では品質を高める、即ち送信電力や伝送容量の品質の向上(Improve Quality of Power and Capacity)が重要なファクターであるとの認識が示された。更に、衛星通信業界にとってアフリカ市場が今後新市場として重要(Strong Demand Market)になってくるとの示唆があった。

更にこの業界が共同で問題解決に当たらなければならないItemがある、それは混信(Interference Problem)問題である、しかし問題の95%はHuman Errorであり、5%が周波数調整(frequency coordination)など重要な(serious)な問題である、この問題に皆で解決にあたる必要がある、との問題提起もなされた。

Ka-band Payloadへの投資が重要であるがその他に、X-bandを用いたHosted Payload

の要求が米国のみならずその他の国でも出てきている、地上通信設備の普及が遅れている国ではこの方式がコスト効率の良い方法であるとの指摘もあった。



Fig-2: Convention Center の中庭

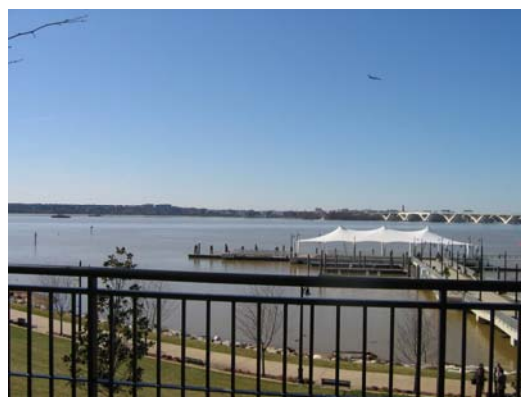


Fig-3 National Harbor の風景

” **The Satellite Manufacturing**”:**Beyond Survival toward Profitability** では Messer Marshall Byrd, General Manager L.M., John Celli, President & COO Space System Loral, Evert Dudok, CEO EADS Astrium, Stephen O’Neal, President Boeing Space and Intelligence Systems, Michael Larkin, EVP and GM, Space Systems Group Orbital Science Corporation, Reynald Seznec, CEO, Thales Alenia Space の 6 人の衛星製造業者の top が参加し討論が行われた。昨年は Christopher Richmond, SVP Global Communications が Orbital を代表していたが今年は Michael Larkin 自らが参加した。

各社がそれぞれ遂行している自社の方針について説明された、小型衛星を中心に事業を進める Orbital 社の Michael Larkin は 2009 年度に引き続き小型商業衛星市場は堅調であり小型衛星志向は定着していると。この分野では近い将来中国やインドの登場が予想され益々価額競争を激化させるであろう。一方このような状態の中で Boeing Satellite Systems, L.M は利益面では商用衛星と軍用衛星の両方の組み合わせによるシナージ効果が生き残り政策として重要であるとの主張は昨年同様であった。



Fig-4 Satellite Manufacturer’s CEOS

Hosted Payloads: A new Model for Commercial / Military Cooperation では

Messer Charles Baker, Deputy Administrator, National Oceanic and Atmospheric Administration, Don Broun, VP Hosted Payloads, Intelsat, Arnold Friedman, SVP, Marketing and Sales, SSL, Joseph Rouge, Director, National Space Security Office, Jim Simpson, VP, Space Development, Boeing Satellite System International Inc. Mager General Craig P. Weston, President and CEO, US Space, LLC の6人がパネリストを努め現状説明と討論が行われた。

ここでのテーマは“Economical Access to Space”の代表例として今はやりの Hosted Payload Business Model が取り上げられた、各社とも NASA, NOAA の Hosted Payload の例、Intelsat General Hosted Payload の例として、FAA WAAS 向けに Space Craft と Payload を 2003 年、2005 年に、CISCO IRIS に同じく Space Craft と Payload を 2007, 2009 年に、ADF, UHF に同様 Space Craft と Payload を 2009 年契約、2012 年運用開始で実施している、との説明あり。又 National Space Security Office より Hosted Security Payload by Government を受けている状況の説明があった、市場全体でこの種の要求が増大している、その理由はこの分野は民間の方が納期が速く、価額が安く、高品質でサービスが提供できることであると、Boeing では TSAT 用に IR Missile Warning, Earth Observation Mission, Space Situational Awareness, DoD Satcom などの Hosted Payload System を実施しているとの説明があった。

最後にこの分野は profitable なビジネスになっているとの見解があった。この形の Business Model の原型は Inmarsat や LeaSat にあるのであろう。聴衆はほぼ満席となり立って聴講している人も出るほどの賑わいでありこのテーマへの感心の高さを知らされた。



Fig-5 Hosted Payloads Conference Room の賑わい

Beyond Satellite Broadband-Next Generation of High Throughput Satellites

衛星通信での新市場開発を模索してきた結果、大容量伝送の Ku-,Ka-Band Satellite Communication が High Throughput Satellite として Hughes Communication, Jupiter, ViaSat-1 Eutelsat KaSat が Satellite Broadband Internet Access Market への対応としてここ数年重要テーマになっている、コンテンツとしての HDTV の普及や Ancillary Terrestrial Component(ATC)の活用など、更に WildBlue の普及 HNS の Space way の復活、ViaSat-1 計画などの動向がある、討論では Messier Mark Agnew, VP and GM Satellite Broadband System ViaSat, Mike Cook, SVP North American Div, Hughes Network Systems, Nicorae Iuoras, Director of Systems Engineering, OmniGlove Networks Inc.

Arduino Patachini, Director of Multimedia and Value – Added Services, Eutelsat , Patmpob Suwansiri, Vice President Thaicom Public Company Limited, に加え Patrick French が討議をリードしていた。昨年は Moderator が日本の WINDS の性能として 155MBit の広帯域伝送の成功を紹介してパネリストの意見を求めたが現状では 10MBIT Capacity で地上は 0.7m の Antenna サービスで十分であり WINDS Application の普及は眼中に無い様子であった、矢張り実用と研究開発の先行性の違いであろう。

Satellite Executive of the Year Luncheon

今年の Satellite Executive of the Year の受賞者は CapRock Communications の CEO Peter Shaper であった。受賞の理由は “Made Significant business impact in the global satellite area” となっている。Satellite Executive of the Year Presentation と Award Luncheon は Boeing 社の主催で実施された。



Fig- 6 :Mr. Peter Shaper, CEO CapRock Communications の Award Luncheon

展示会場

展示会場は今年も284社の出展で例年に勝る盛況であった。米国、欧州衛星メーカーの総出演、日本からは NEC マイクロ波管(Microwave Tube Ltd),太平洋地域最大の衛星オペレータのスカパーJSAT(SKY Perfect JSAT Corporation)の出展が昨年に引き続き展示されていた。日本の衛星メーカーである NEC、MELCO が見当たらず淋しい限りである、しかしスカパーJSAT(SKY Perfect JSAT Corporation)の継続参加は日本勢としては頼もしく感じられた。主要衛星メーカーのほかに Satellite Broadband Application として HDTV, DVB-RCS, DVB-S2, IP-STAR, Wild Blue 対応の地上装置の展示が多かった、展示場は最終日の終了間際まで大勢の来訪者で賑わっていた。



Fig-7 展示風景 (Orbital 社)



Fig-8 展示風景(ViaSat 社)



Fig-9 展示風景：賑わっている会場風景



Fig-10 欧州衛星メーカーの展示風景



Fig-11 : 展示会場風景 SKY Perfect JSAT



Fig-12. 展示風景 日本よりの出展

SSPI Gala

例年は Hyatt Regency Hotel で開催されていた SSPI Gala が今年 National Havor の Gayload National Convention Center にて開催された、1300 人を超える参加者で盛大に挙行された。会場には 10 人が着席する円形テーブルが 134 テーブル超配置されている、その中で会場のほぼ中央わずか右よりのテーブルにて、食事を採りながら談笑し各国よりの参加者との再会を祝して楽しいひと時であった。



Fig-13: SSPI Gala カクテルレセプション会場



Fig 14 : GALA 会場にて JFSC 副会長



Fig 15 : Pelton 先生と私 Gala にて



Fig-16:Gala にて日本からの参加者



Fig-17 Intelsat 時代の友、Mr. Bethahalon



Fig-18 : Gala にて Hughes 社の旧友



Fig-19: 会場のロビー